

企画展

茶の湯の器と書画－香雪美術館所蔵優品選

2020年6月13日(土)～8月30日(日) ※8月10日→30日に会期を延長しました

※会期中一部展示替えがあります。

中之島香雪美術館は、2020年6月13日(土)より、企画展「茶の湯の器と書画－香雪美術館所蔵優品選」を開催いたします。

公益財団法人香雪美術館が所蔵する多種多様な美術品の多くは、朝日新聞社の創業者である村山龍平(むらやまりゅうへい)(1850～1933)が収集したものです。

本展ではコレクションのなかから、茶の湯に傾倒した村山が茶事に用いた茶道具や、茶席を飾った平安・鎌倉時代のかな書き、南宋から元時代の墨跡などの掛軸を展示します。その他、水墨画や浮世絵などの絵画も含めて、村山コレクションの優品約80点をジャンル別にアラカルトで紹介します。

※浮世絵は前期、水墨画は後期にまとめて展示します。



本展ポスター画像

会 期	2020年6月13日(土)～8月30日(日) ※8月10日→30日に会期を延長しました ※会期中展示替えあり 前期(浮世絵):6月13日(土)～7月12日(日) 後期(水墨画):7月14日(火)～8月30日(日)
休 館 日	月曜日ただし8月10日(月・祝)は開館、8月11日(火)は休館 >
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般900(700)円、高大生500(350)円、小中生200(100)円 *()内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金 *前売り券は6月12日まで、香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、 フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

第1章 茶入・茶碗・茶杓

茶入は抹茶を入れておくための容器です。茶事では茶入から茶杓で抹茶をすくって茶碗に入れ、釜から柄杓で湯を汲み、茶筌でかき混ぜて茶を点てます。㊦は胴の上部に段が付いた珍しい形の茶入です。㊧は、緑と白の釉薬（うわぐすり）が流れた抽象的な表情と、忍草の具象的な文様とのコントラストが斬新な茶碗です。



㊦重要美術品 瀬戸「メ切茶入 銘 利休メ切」
(江戸時代前期 17世紀) 香雪美術館



㊧野々村仁清「色絵忍草文茶碗」(江戸時代前期 17世紀) 香雪美術館

第2章 水指・花入

水指にはきれいな水を入れておき、柄杓で水を汲んで釜に水を足し、茶を点てた後の茶筌をすすぎます。茶席の床や床柱には花入を設置して、季節の花を活けます。㊨は、力強いへらの削り跡を残した側面に、松や垣根が力強い筆致で描かれた、桃山時代を代表する茶道具の一つです。㊩は、利休の孫である千宗旦^{せんそうたん}(1578～1658)が、樂家三代道入^{どうにゅう}(1599～1656)のために作った花入で、道入の通称が「のんこう」となった由来の道具。最後の第6章を樂道入の特集展示とし、当館所蔵の楽茶碗や水指とともに展示します。



㊨重要文化財 美濃「志野松籬図水指」
(桃山時代 17世紀) 香雪美術館



㊩千宗旦「二重切花入 銘 のんこう」
(江戸時代前期 17世紀) 香雪美術館

第3章 香炉・香合・釜・炭道具

香合は、炉や風炉に炭をくべる「炭手前」の際に、香をたくための香料を入れておく容器です。㊦は瓢箪に彩色したもので、孔子とその弟子顔回とのエピソードにちなんだ名前が付いています。



㊦「回也香合」(江戸時代前期 17世紀) 香雪美術館



㊦尾形乾山「色絵立葵文透鉢」(江戸時代中期 18世紀) 香雪美術館

第4章 懐石道具・菓子器

茶事において、茶を飲む前には懐石料理が、茶を飲む際には菓子が出されます。㊦は京都の陶工尾形乾山(1663～1743)による鉢で、懐石道具・菓子器の両方に用いられます。文様と形が一体化した完成度の高い器です。文様となった立葵は、展覧会の会期と同じ6月から8月にかけて花を咲かせます。

第5章 絵画・書跡

茶席の床の間には、季節や茶事のテーマに沿った書画が掛けられます。また大規模な茶会では、書画を鑑賞するための展観席が設けられることもあります。㊦は、茶人であった出雲松江藩主松平不味(1751～1818)が秘蔵していました。

また村山コレクションには質の高い浮世絵が含まれています。

㊦は美人画を得意とした喜多川歌麿(1753?～1806)の作で、月見をする母子の姿が微笑ましい。勝川春章(1743～93)筆の㊦は、戦前の美術専門誌に掲載されて以降、百年以上表に登場したことがなく、その出現が望まれていた作品です。



㊦伝 西行「落葉切」(鎌倉時代・建仁元年(1201)) 香雪美術館 【後期】7月14日～8月30日



㊦喜多川歌麿「月見の母と娘図」(江戸時代後期 19世紀) 香雪美術館【前期】6月13日～7月12日



㊦勝川春章「三都美人図(三幅対のうち)」(江戸時代中期 18世紀) 村山コレクション 【前期】6月13日～7月12日

主な出展作品

記号	指定	作者・生産地	作品名	時代	所蔵	展示期間
A	重要美術品	瀬戸	メ切茶入 銘 利休メ切	江戸時代前期 17世紀	香雪美術館	
B		野々村仁清	色絵忍草文茶碗	江戸時代前期 17世紀	香雪美術館	
C	重要文化財	美濃	志野松籬凶水指	桃山時代 17世紀	香雪美術館	
D		千宗旦	二重切花入 銘 のんこう	江戸時代前期 17世紀	香雪美術館	
E			回也香合	江戸時代前期 17世紀	香雪美術館	
F		尾形乾山	色絵立葵文透鉢	江戸時代中期 18世紀	香雪美術館	
G		伝 西行	落葉切	鎌倉時代・建仁元年(1201)	香雪美術館	後期 7月14日～8月30日
H		喜多川歌麿	月見の母と娘図	江戸時代後期 19世紀	香雪美術館	前期 6月13日～7月12日
I		勝川春章	三都美人図(三幅対のうち)	江戸時代中期 18世紀	村山コレクション	前期 6月13日～7月12日

※ご使用の際は所蔵元・展示期間の表記をお願いします。

ギャラリートーク

※ギャラリートークは当面の間、開催を見合わせます。

~~開催日 2020年6月13日(土)~~
~~7月11日(土)、8月8日(土)~~
~~開催時間 15時30分～(1時間程度)~~
 場 所 中之島香雪美術館展示室内
 参加料 無料(入館料は必要です)

夜間特別開館

開催日 2020年6月25日(木)
 7月30日(木)
 開催時間 ～19時30分(入館は19時まで)
 割引 フェスティバルシティにお勤めの方、
 社員証提示で200円引き!

記念講演会

ないとう まさと

内藤 正人さん(慶應義塾大学文学部教授)

日 時 2020年6月27日(土) 14時～15時30分(13時30分受付開始)

テーマ 「肉筆浮世絵 美人画の精華 村山コレクションの名品を中心に」

会 場 中之島会館(中之島香雪美術館隣)

参加料 500円(美術館入館には別途入館券が必要)

定 員 ~~250名~~ 73名

【応募方法】(先着順)

①メール 住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記アドレス宛にお申し込みください。

E-mail: n-kouenkai@kosetsu-museum.or.jp

②往復ハガキ(1枚で2名様まで応募可能)に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。

○宛先:〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階

中之島香雪美術館「茶の湯の器と書画」展 講演会係

○締切:2020年6月12日(金) 消印有効



美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、^{むらやまりゅうへい}村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（^{げんなん}玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の^{かわい}河合幾次、和館書院棟の^{ふじいこうじ}藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した^{こばやしお}小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



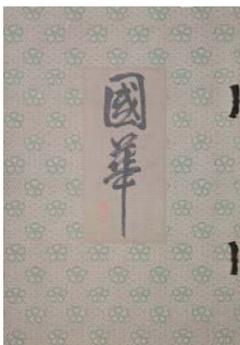
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井壱工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考	特に取材したい場所・内容等	

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
中之島香雪美術館 資 料 画 像	ロ ゴ 画 像

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「中之島香雪美術館」 広報担当
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階